

せいかつか&そうごう

第9号

2002

人とのかかわりの中で生きる力を育む体験活動

神奈川県立教育センター 吉田 豊 香



児童・生徒にとって、体験を通して学ぶことの重要性が今日改めて提言されており、この学びは教師(大人)にとっても大切なことである
と考える。そのことについて、二つの体験をもとに述べることにする。

最初に、幼稚園に勤務していた初任の頃のことである。自由保育の
時間に私は、N男と砂場でお団子作りをしていた時、できあがったお
団子を置く場所を聞かれ、何のためらいもなく場所を用意し指示をしたのである。放課後
園長先生は、N男への対応について「聞かれた時『どこがいい?』と問い返せば、N男は
置き場所について考え工夫したであろう。そのことが“考えさせる保育”なのです。」と
言われた。問い返すという簡単なことが難しくすぐに指示をしてしまうのである。徐々に、
子どもや言葉に対して気配りをするようになり、単なる遊び相手ではなく保育者としての
責任の重さや仕事の大変さを認識し始めたのである。

次に、小学校第2学年の「国語」の授業中のことである。指導計画通りに登場人物に手
紙を書く活動を指示した時「そのお手紙に返事は来るの。住所分かるの。」等、子どもは
学習と生活を結びつけて考え次々と質問し私を困らせたのである。子どもにとって当然の
疑問が教師にとっては予想外なことであり、迷惑なことだったのである。この時の子ども
の姿が、授業や子どもの学びについて見直す大きなきっかけになったのである。

以上のような日常生活の中で気づかされることは多くあり、その内容が身近で具体的な
ので納得でき、そのことが私の宝(力)となり自分を支えてくれているのである。だから
こそ体験を通すことの重要性は生きる力につながるのだと思われる。しかし、体験を通し
てもそのことに気づかせてくれる人とのかかわりや、その指摘を誠実に受け止める心がな
いとその価値は半減するであろう。これからも新しい学びの世界への体験に挑戦し続けたい
ものである。

目 次

◆人とかかわりの中で生きる力を育む体験活動	吉田 豊 香	1
-----------------------------	--------	---

特 集 I 新生・総合的学習の創始に向けて ―生活科との関連を見捉えて―

◆総合的な学習の時間のねらいと目指す子ども像	布谷 光 俊	4
◆手応えのある学びの成立に向けて	嶋 野 道 弘	12
◆宮上小学校の総合学習のカリキュラム作り	二宮 昭 夫	20
宮上小学校におけるカリキュラム作りの軌跡から学ぶ	日台 利 夫	27
◆総合的な学習に向けた評価の工夫	高浦 勝 義	30
◆総合的な学習における見取りと支援	平野 朝 久	38

特 集 II 特色ある単元の開発と実践

◆生活科単元「電車ごっこをしよう」をめぐる	生石 正 観	46
子どもを具体的に捉えて働き掛けること	藤井 千 春	53
◆「基礎基本の習得」から「自己の学習スタイルの確立」を目指して	諸 範 弘	56
所沢中学校の実践の意義	若手三喜雄	63
◆人・自然・社会と共に生きる力を育てる総合的な学習	小野間正巳・加藤孝子	66
◆出会いや活動を通して自分の生き方を探って行く総合的な学習の取り組み	竹田正子・中澤利枝子	74

自 由 稿

◆総合的学習と生活科の研究課題は何か	寺尾 慎 一	82
◆大学における総合学習「総合演習」の取組の課題	齋 藤 勉	90

◆ 問い直したい「話し合い」観	松本 謙一	98
—「総合的な学習の時間」新設に際しての一考察—		
◆ 「アサガオの種のプレゼント」活動の意義を考える：子どもと教師の相互作用分析から	磯村 陸子	106
◆ 愛知県における幼児の動物との触れ合いに関する調査研究	野田 敦敬	114
◆ 総合的学習に関する小中学校教員の意識	藤田 静作・渡邊 暁	122
—生活科との関連性の視点から—		
◆ 知的障害児教育における「総合的な学習の時間」の現状と課題	坂本 裕・河田 将一	130
—知的障害養護学校の実態調査を通して—		

私の授業づくり

◆ 魅力いっぱいふるさと小谷	田中美紀子	138
—小谷の水の博士になろう—		
◆ かかわり合いながら自ら活動をつくっていく姿を求めて	嶋根由紀子	144
—茨城大学教育学部附属小学校 第2学年『電車でGO!』の実践より—		

日本生活科・総合的学習教育学会会則	148
学会だより	149
学会誌編集委員会投稿及び編集規定	150
編集後記	151